

【持続可能な『シマ』づくりにつながる戦略拠点プロジェクト】

加計呂麻島ターミナル整備事業



水産観光課

【持続可能な『シマ』づくりにつながる戦略拠点プロジェクト】

加計呂麻島ターミナル整備計画

●現状と課題

加計呂麻島は離島の離島という孤立した地域であり、少子高齢化の進行により集落の過疎化、地域を担う若者の島外流出、地域コミュニティの衰退によって地域の活力が低下し、人口減少を招いている状況であります。

また、加計呂麻島と奄美大島本島側を結ぶ交通手段、物流輸送等が海上交通の船舶のみとなっており、奄美大島本島側との生活安定の格差が生じていることから、島民の生活利便性の改善を図るとともに、観光振興の充実による交流人口の増加を図りながら、定住促進による地域の担い手を確保し地域の活性化を再興していくことが重要であります。

●目指す将来像

加計呂麻島は観光資源が豊富であり、貴重な自然や文化にふれあえる観光コンテンツとなっていることから、島内への観光客が年々増加している状況であります。さらには、『奄美大島、徳之島、沖縄北部及び西表島の世界自然遺産』登録を受けたことにより、今後もさらなる交流人口の増加が見込まれることから、多様な主体と連携を図りながら、本町の『瀬戸内町長期振興計画』『まち・ひと・しごと創生総合戦略』の確実なビジョン実現に向け、加計呂麻島における『人』を起点とし、島外から持続的に人の流れをつくり、地域住民と観光客がふれあい、島の魅力発信の充実と島民の生活安定の改善を図りながら定住促進による人口減少を抑制し、加計呂麻島の地域資源の保全並びに活用により、『活力あるシマ・賑わうシマ』を目指します。

加 計 呂 麻 島 の 地 域 資 源



【持続可能な『シマ』づくりにつながる戦略拠点プロジェクト】

加計呂麻島ターミナル整備計画

●事業の概要

加計呂麻島の玄関口である瀬相集落に、ターミナル施設を整備し、地域住民や船舶利用者等の快適性と海上・陸上交通のアクセス利便性の向上を図りながら、加えて、観光、物流、交流機能を備え、賑わいにあふれた拠点施設としての利活用を高めます。また、船舶による物流輸送と併せ、ドローン等の活用による物流輸送の拠点基地として利用し、海上波浪等の天候不良時における物流停滞を解消し、島民の生活安定の改善を図る。更には、ターミナル施設に隣接する農産物直売所へのアクセス利便性を図りながら農産物の物販強化に取り組み、農産物の生産拡大や消費拡大による生産者の所得向上と直売所の売り上げに繋げ、島内の地域活力形成の再興を図り、少子高齢化対策と定住促進による人口流出の抑制に繋げることを目的としています。

～ 整備計画 ～

事業名 加計呂麻島ターミナル整備事業

スケジュール 令和3年度～令和6年度(予定)

令和3年度：①基本設計業務委託(7月～12月) 施設設計 A≒440㎡
②地質調査業務委託(6月～11月) N=2箇所
③基本設計のパブリックコメント(3月)

令和4年度：実施設計・地質調査(施設・外構設計、工事費算出)

令和5年度：工事実施(施設・外構工事)

令和6年度：工事実施(既存待合所解体・駐車場整備)

※スケジュール変動の可能性は十分にあります。



ターミナル建設予定地(瀬相地区)

【持続可能な『シマ』づくりにつながる戦略拠点プロジェクト】

加計呂麻島ターミナル整備計画

●新たなターミナル施設により想定される主な効果

（直接効果）

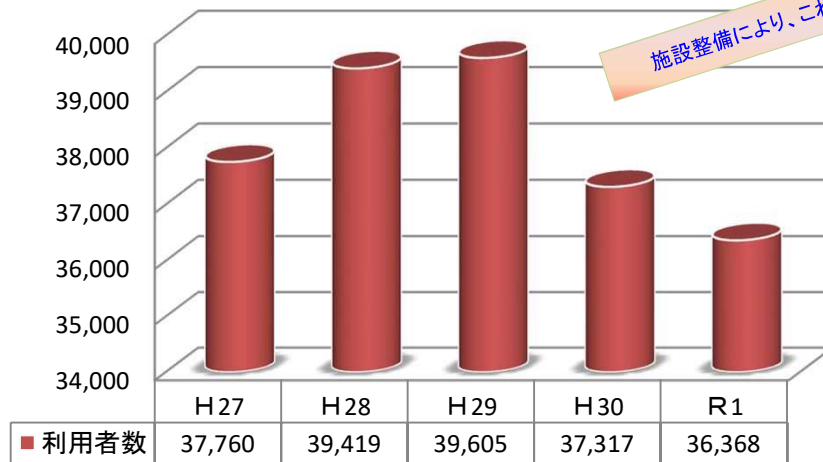
- 船舶利用者の快適性・利便性の向上と安全性の確保
- 地域住民と観光客の交流による地域コミュニティの活力
- 行政サービスの提供による地域住民の利便性向上、負担軽減
- 陸上・海上交通ネットワークの円滑化
- 円滑な物流輸送及び保管等による生活安定の確保
- ワーキングスペースの開放による多様な働き方・観光滞在促進

（間接効果）

- 地域資源の保全
- 観光客の移住
- 農産物直売所との連動による物販強化と農産物の生産拡大及び生産者の所得向上
- 人口流出の抑制（地域コミュニティの維持）

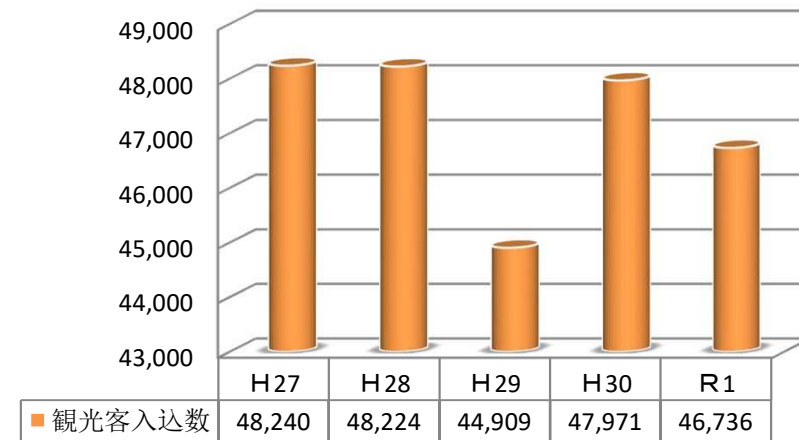
●瀬相港の利用者及び加計呂麻島への入込客数

フェリーかけろま利用者数（人）



（※商工交通課資料）

観光客入込客数（人）



（※水産観光課資料）

施設整備により、これまで以上の利用者・来島者の増加に繋がる！

【持続可能な『シマ』づくりにつながる戦略拠点プロジェクト】

加計呂麻島ターミナル整備計画

加計呂麻島の地域資源及び瀬相港の現状

